

伝統を守り 伝統をつなぐ

学校長 梅田 比奈子

「本当に、きれいに演技できていますね。すぐに、瀬ヶ崎小学校って分かりました。」6年生が参加した横浜市体育大会。神奈川区、南区、港南区、旭区、磯子区、金沢区、緑区、都筑区、瀬谷区の6年生が集まり、選手として出場する他、全員で長縄と「Let's Dance With Yokohama」の演技を行います。最初の言葉は、瀬ヶ崎小学校の演技の後に、ある先生がわざわざ座席までいらして伝えてくださいました。

瀬ヶ崎小学校の演技の素晴らしさは、「Let's Dance With Yokohama」が、市の体育大会の演技になった時から続いています。「先輩より、いい演技を」「素晴らしい演技の伝統をつないでいなくてははいけない。」一人ひとりのそういった思いが、あの素晴らしい演技につながったのだと思います。

こういった伝統は、演技だけでなく、様々な場面で見られます。例えば、右の写真は、5年生の下駄箱です。すべての学年の下駄箱は、靴のかかどがきちんと揃えて入られています。また、電車の乗り方は、どの学年も素晴らしく、瀬小ずわりは、一人ひとりの子どもの背中がピンと伸びています。こういった「伝統を守る」ことは、自然にできることではありません。一人ひとりの意識と瀬小の培われてきた文化、そして、風土がこの伝統をつないできたのだと思います。



神奈川の伝統工芸に箱根寄木細工があります。木の自然な色や木目をいかして、寄せ合わせ、精緻な幾何学模様をつくっていく木の工芸品です。寄木細工は、江戸時代末期に箱根町畑宿で始まって、今まで受け継がれています。お正月の箱根駅伝の往路優勝のトロフィーも寄木細工で作られています。

昨年、その職人の一人、露木清高さんにお会いし、お話をうかがう機会がありました。寄木細工の伝統を守り、新しい事に挑戦し続けてきた露木さん。2005年にそれぞれ師匠の違う若手職人と「雑木囃子」というチームをつくりました。そして、そのグループで勉強会を重ね、切磋琢磨し、新しい寄席木細工に挑戦し、素晴らしい作品をつくっています。「伝統工芸品は、使ってもらうことが大事」という思いをもつ露木さん。今も、海外へ作品を出したり、ホテルとコラボレーションしたりするなど、伝統を守りながら、新しく創造し、伝統をつなげています。これは、受け継いできたものをよりよくしていこうという思いから、取り組まれてきたことだと思います。

伝統を守り、つなぐ・瀬小の子どもたちも、伝統を受け継ぎながら様々なことを考え、自分たちらしく、その伝統に新しい事を重ねています。「瀬小の良さを引き継ぎ、自分たちでさらに良い学校にしていく。」その思いは、一人ひとりの子どもたちが、安心して、豊かに生活できる学校づくりにつながっていきます。そして、なかまと共に高めあっていく素晴らしさを感じることもできるでしょう。12月には、「ふれあいフェスティバル」があります。長年行われているこの行事に、子どもたちがどんな思いを吹き込むのか、今から楽しみです。